

10代のためのプレミアム・コンサート 大野和士×バルセロナ交響楽団

【出演者プロフィール】

●大野和士 *Kazushi Ono* (指揮・おはなし)



東京生まれ。東京藝術大学卒。ピアノ、作曲を安藤久義氏、指揮を遠藤雅古氏に師事。

バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。

1987年イタリアの「トスカニーニ国際指揮者コンクール」優勝。以後、世界各地でオペラ公演ならびにシンフォニーコンサートの客演で聴衆を魅了し続けている。

90-96年クロアチア、ザグレブ・フィル音楽監督。96-2002年ドイツ、バーデン州立歌劇場音楽総監督。92-99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02-08年ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）音楽監督。12-15年イタリアのアルトゥーロ・トスカニーニ・フィルハーモニー管弦楽団の首席客演指揮者、08-17年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団ならびにバルセロナ交響楽団音楽監督。18年9月、新国立劇場オペラ芸術監督に就任。

オペラでは、07年6月にミラノ・スカラ座デビュー。その後、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、グラインドボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭への出演などが相次いでいる。

芸術選奨文部大臣新人賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。

17年5月、大野和士が9年間率いたリヨン歌劇場は、インターナショナル・オペラ・アワードで「最優秀オペラハウス2017」を獲得。6月にはフランス政府より芸術文化勲章「オフィシエ」を受勲。同時にリヨン市からもリヨン市特別メダルが授与された。

●バルセロナ交響楽団

Barcelona Symphony Orchestra - the National Orchestra of Catalonia



バルセロナ交響楽団は1944年にエドゥアルド・トルドラによって創立され、1962年から67年はラファエル・フェレルが後任を務めた。その後、アントニ・ロス＝マルバ（1967～78、1981～86）、サルヴァドル・マス（1978～1981）、フランツ＝パウル・デッカー（1986～1991）、ガルシア・ナヴァロ（1991～1993）、ローレンス・フォスター（1996～2002）、エルネスト・マルティネス・イスキルド（2002～2006）、大植英次（2006～2010）、パブロ・ゴンザレス（2010～2015）ら指揮者が音楽監督を務め、2015年9月からは大野和士がその重責を担っている。

その70年以上の歴史を通して、バルセロナ交響楽団はDecca、EMI、Auvidis、Koch、Claves、Naxos、Telarc、BISレコードなどから世界的に著名なソリストと共にモンサルヴァーチェ、ジェラルド、ファリヤ、ダルベール、アルベニス、ドホナーニ、バルトーク、ビゼー、ロドリゴらの作品に焦点を当てた録音を出している。2000年9月、トマス・ブレトン：歌劇「ドロレス」の録音や、2004年「カルメン・シンフォニー」、2006年にミシェル・カミロと共演した「ラプソディ・イン・ブルー」の録音がラテン・グラミー賞ベスト・クラシック・アルバム部門を獲得。その他にもEMIから著名なギタリスト、スーフエイ・ヤンをソリストに迎えてアランフェス協奏曲をリリース、出版社Tritoへのアルベニスのオーケストラ作品の学術録音などがある。Naxosとは確固とした共同関係を確立し、近年ではマイアベアやモンサルヴァーチェ、マスネ、グラナドスの作品をリリースした。

ツアーも楽団の重要なプロジェクトのひとつであり、バルセロナ交響楽団はニューヨークのカーネギー・ホールなど世界的に著名なホールへ客演し、またロンドン、ロイヤル・アルバート・ホールで開催されるBBCプロムスなど国際的な音楽祭に出演している。2013年2月にはオーストリー、スロヴェニア、クロアチア各国へのツアーを行った。

著名な指揮者やソリストとの共演も積極的に行い、これまでにエリアフ・インバル、ヘスス・ロペス＝コボス、ダニエル・バレンボイム、クリストファー・ Hogwood、トン・コブマン、ミシェル・プラツソン、エマニュエル・クリヴィヌ、レナード・スラットキン、ドミトリー・キタエンコ、イルジー・ビエロフラーヴェク、ジョヴァンニ・アントニーニ、ヤコブ・クライツベルク、ステファヌ・ドゥネーヴ、ジュゼップ・ボンス、マルク・ミンコフスキーら指揮者と、また、ラドゥ・ルプ、フランク＝ペーター・ツインマーマン、アルカーディ・ヴォロドス、モンセラート・カヴァリエ、アリシア・デ・ラローチャ、ミッシェル・マイスキー、ピンカス・ズーカーマン、マルタ・アルゲリッチ、ジョシュア・ベル、ヒラリー・ハーン、ギドン・クレーメル、ハンス・フォン・メルク、サラ・チャン、ヴィクトリア・ムローヴァ、ヴィオレッタ・ウルマーナ、ニコラス・アンジェリック、ティル・フェルナー、ワディム・レーピン、アリス＝紗良・オット、アラベラ・シュタインバッハー、ニコライ・ズナイダー、ナターリヤ・ガートマン、アリサ・ワイラーズタイン、マリオン・コティヤールらソリストと共演。

リセウ大劇場のオペラ公演にも定期的に参加しており、近年ではプロコフィエフ「賭博師」、R. シュトラウス「ダフネ」、モーツァルト「魔笛」、ワーグナー「リエンツィ」、プッチーニ「外套」などの歌劇に出演した。

バルセロナ交響楽団はクラシック音楽から現代音楽まですべてのジャンル、とりわけカタルーニャ地方の作曲家の作品の普及に努めている。

バルセロナ交響楽団は、カタルーニャ州とバルセロナ市によって形成されるオーデイトリウム・オーケストラ協会のメンバーで、1999年4月よりスペイン人建築家 ラファエル・モネオのデザインによるバルセロナのラウデイトリを本拠地としている。

2019年の来日は実に24年ぶりとなる。

●東京シティ・バレエ団 Tokyo City Ballet



1968年、日本のバレエ界では初の合議制バレエ団として設立。以来、古典と創作を両輪のごとく上演するという創立理念を大切に、全国はもとより海外も含め、意欲的な活動を続けている。1994年から東京都江東区と芸術提携を結び、ティアラこうとう（江東公会堂）をホーム劇場に、「白鳥の湖」「ジゼル」などの古典バレエの名作や、「ロミオとジュリエット」「真夏の夜の夢」「カルメン」などのオリジナル作品、オーケストラとバレエが同じ舞台上で共演する「オーケストラwithバレエ」、オーディションで選ばれた子ども達と共演する「くるみ割り人形」と、東京シティ・バレエ団ならではの多彩なプログラムを芸術提携公演として年4演目上演している。また、江東区内小学校にて毎年アウトリーチ事業（2014年第8回キッズデザイン賞受賞）を実施し、「Ballet for Everyone — バレエの楽しさと豊かさを、すべての人と分かち合おう—」というビジョンの下、バレエの普及活動も積極的に行っている。2016年7月公益財団法人設立。

2018年に創立50周年記念公演として藤田嗣治美術による「白鳥の湖」を大野和士氏の指揮(演奏:東京都交響楽団)で上演し高く評価された。